

大野市地域公共交通計画と公共交通ネットワーク再構築の概要

作成:令和5年11月

計画策定の背景と目的

大野市地域公共交通計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律(平成19年10月施行)」に基づく計画で、平成31年3月策定の「大野市地域公共交通網形成計画」が終期を迎えるため、新たに計画を作成する。

本市の公共交通の基本方針や目標、目標達成に向けた取り組みを示し、「共創」の姿勢であらゆる移動を確保することにより、本市が安心して住み続けられるまちとなることを目的とする。

【計画区域：市全域 / 計画期間：令和6年度～10年度】

公共交通を取り巻く現状

1. 利用者が減少

人口減少や少子化、運転免許保有者の増加などにより、市内公共交通の利用者は10年間で4割減少

2. 移動ニーズと交通サービスのミスマッチが発生

時間帯や便によって低い運行率の路線が存在、収支率の悪化と公的負担が増加
市内公共交通利用者一人当たりの運行経費は10年間で2倍、運行経費は25%増加

3. 公共交通がわかりにくい

運転免許保有者の増加に伴い公共交通に触れる機会が減少
公共交通に関する情報が十分に伝わっていない可能性

4. さまざまな移動を支える担い手の不足

バスやタクシーの運転手が不足、労働環境の改善や働き方改革が課題に

5. 北陸新幹線福井・敦賀開業、中部縦貫自動車道県内全線開通の好機

中部縦貫自動車道九頭竜IC開通により、和泉地区との往来がより便利に
現状、大野市内は夜間や早朝にタクシーが運行していない

計画の基本方針・目標・評価指標

基本方針

安心して住み続けられる結のまちに

～ あらゆる移動の確保・共創で定住を推進 ～

目標

目標1 安心して移動できるまちに

～ 定住を支える公共交通の確保 ～

目標2 ちょうど良い公共交通があるまちに

～ 公共交通ネットワークの再構築と改良 ～

目標3 もっと移動にやさしいまちに

～ 交通サービスの利便性向上 ～

目標4 結の心と進取の気象で共創のまちに

～ さまざまな連携と新技術で移動を確保 ～

目標5 楽しく快適に周遊できるまちに

～ 楽しく快適な二次交通の充実と周遊性の向上 ～

評価指標

市内公共交通利用者数
18,412人 ▶ 22,200人

運転免許自主返納支援事業
申請者の割合
51.5% ▶ 73.7%

市内公共交通収支率
3.2% ▶ 4.8%

乗合タクシーリピーター数
66人 ▶ 100人

共創事例の創出件数
-件 ▶ 5件

広域公共交通利用者数
445,795人 ▶ 530,000人

公共交通ネットワーク再構築



現在の公共交通ネットワーク (R5)



再構築後の公共交通ネットワーク (R6~)

■ 主な変更内容

市営バス

- 道の駅線と和泉線を統合し、「和泉大野線」を新設
中部縦貫自動車道を走行し、和泉地区から陽明中学校へのスクールバスを兼ねる
- 前坂線と中竜線を廃止し、和泉地区内のデマンド交通「和泉乗合バス」を新設
- 大矢戸線の廃止に伴い、まちなか循環バス車両により運行する「下庄線」を新設

乗合タクシー

- 運賃の改定 一律300円 (現行は距離に応じて300円~500円)
- 相乗り時100円割引廃止
- 会員制導入 (会員は自宅まで送迎可)
- 時刻表の改定
- 停留所の追加
- 土曜日の運休
⇨ タクシー運賃助成制度の創設を検討
- 小山・木本堀兼線
定時便の廃止
⇨ 通学利用児童は中学校スクールバスに乘車

まちなか循環バス

- 運行内容継続 (時刻表の改定を予定)

■ その他取組例

- リアルタイムの運行情報の提供(バスロケーションシステムの導入検討)
- わかりやすい情報提供と経路検索の充実
- 貨客混載の導入検討 (和泉大野線での物流)
- スクールバスと市営バスの連携を検討(混乗化)
- JR越美北線の魅力向上
- 広域的なMaaSの推進 など